



技
 采
 拾
 集
 十
 三

伊地知文庫
 文庫20
 360
 15



拔棗拾葉集

十三

五

文庫20
369
15

投棗拾葉集卷十三

目錄

中勢内侍乃日記

中勢

石清水御願書

後伏見天皇

如美神社御願書

同

御子之贈給及古今集跋

同

若和去年子中一孫之勅書

後醍醐天皇

宗元集凡之

宗良親王

又

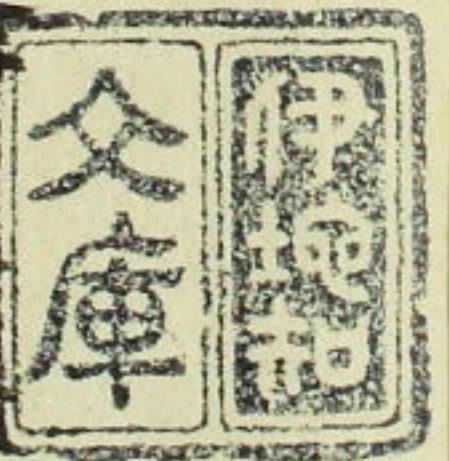
同

又 又 又 又
 千首和歌跋
 恒吉まゝて

同 同 同 同 同
 源義詮

扶桑拾葉集卷第十三

參議從五位下行右近衛權將源朝臣光圀編集
 中勢内侍日記



中勢

大いなるまへへは春秋の事なりこの事なり
 白雲也。丁忽の流もこの事なり。まゝとくしてはあつてもあ
 一のほかに世にありと思ひなり。まゝとくしてはあつてもあ
 ましたれ老なりしむらひもあつてもあつてもあつてもあ
 まりた。まゝとくしてはあつてもあつてもあつてもあ
 うる中なり。まゝとくしてはあつてもあつてもあつてもあ
 中なり。まゝとくしてはあつてもあつてもあつてもあ

ひさしのゆくはむらさき

御座るにむらさきやなほのゆくはむらさき
清方のまじり南殿の月とほろひくさき
このころはむらさきやなほのゆくはむらさき
めろつたかたのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
きりぎりすのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
くらしき力持のゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
御座るにむらさきやなほのゆくはむらさき

きりぎりすのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき

まじりぬきなほのゆくはむらさき
あつたかたのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
きりぎりすのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
云々 別尚殿におまかせのゆくはむらさき
少將・中將のゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
ゆりのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
くはりのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
あつたかたのゆくはむらさきやなほのゆくはむらさき
まじりぬきなほのゆくはむらさき


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

お

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ゆせり 海にわたる ありき 海に さらる 舟  
きりもて ありき 舟の 羊畑を 刈りたる 舟  
海に 一丸 ありき 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟

月はとり水将舟よりき

時一はわれ女は舟よりき  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟

く

舟内は舟より左中將  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟

舟

ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟  
ありき 舟の 舟に さらる 舟の 舟に さらる 舟



女は... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...

八年二月十七日、夏に... 海に... 夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...

夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...

我... 夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...

夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...  
夫... 諸君... 夫... 昔... 月... 入... 可... 何... 一...





一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

... 七、... 八、...

...

... 九、... 十、...

...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

...

... 十一、... 十二、...







Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 lines of vertical writing.

Handwritten Japanese text in cursive style, appearing as a short section or a specific note.

Handwritten Japanese text in cursive style, continuing the main body of the document with approximately 15 lines of vertical writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry or a letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry or a letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.



















七十四日  
大納言殿  
南殿の事  
北の事  
大納言殿

大納言殿  
南殿の事  
北の事  
大納言殿







一 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 の世はなほありしに似たり。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も

一 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 の世はなほありしに似たり。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も  
 ありてはなりしを思ふべし。昔の事も







しよはゆたし。まじりていりてと  
しよし。

九日美日まらりし内侍。あし。

十五日まらりし。

十七日まらりし。

十月吾己ん。のまらりし。はし。院宰相

中將。共。あし。院下。あし。

はし。のあし。あし。院下。あし。

神馬川。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

二あし。あし。あし。あし。

山院中納言。あし。あし。

権大夫。あし。あし。

左大臣。あし。あし。

宰相。あし。あし。

院下。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。

八月九日  
 十月十二日  
 十一月  
 十二月

十月九日  
 十一月  
 十二月

ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち

うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち  
 ともてきりてはまにまのけりて松の丹波家本はのち  
 うへにさしてはなれども海の大つらけりておのち  
 甲つらぬまのけりてはなれども海の大つらけりておのち

















治部卿殿

御返事申上り候事

中將内侍お補内侍

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事

御返事申上り候事





あきふれとていしきあそふに  
二月十八日雲井の院女からうしそむに善房  
入道女のおしきしきしきと母花とせら  
母少将殿らにきり枝とおうしとてしきき結女世  
にありしににきりあはれしきり花らうしきりしと  
思ふ母花らうしきりしきりしきりしきりしきりし  
花らうしきりしきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

思ひきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりし

又けしきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりし

あきふれとていしきあそふに  
二月十九日雲井の院女からうしそむに善房  
入道女のおしきしきしきと母花とせら  
母少将殿らにきり枝とおうしとてしきき結女世  
にありしににきりあはれしきり花らうしきりしと  
思ふ母花らうしきりしきりしきりしきりしきりし  
花らうしきりしきりしきりしきりしきりしきりし  
きりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし



五月八日...  
 五月十五日...  
 九月...  
 五月...  
 六月...

姫少松  
 君子女...

六月二日

六月六日...  
 六月...  
 六月...  
 六月...

よらんまらあふり

花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり

あふり

花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり  
花のしるしはあふり

皇后宮権左史由り給へり  
御所へも大らん取の物  
院乃宰相中将にまて  
あつらふとむらひ  
あつらふとむらひ

あつらふとむらひ  
あつらふとむらひ  
あつらふとむらひ  
あつらふとむらひ  
あつらふとむらひ

花もさしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。  
さしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。  
さしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。さしあけしはらりしに。

おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。  
おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。

七月七日の夜も。七月七日の夜も。七月七日の夜も。  
七月七日の夜も。七月七日の夜も。七月七日の夜も。  
七月七日の夜も。七月七日の夜も。七月七日の夜も。

おとをこまに。

おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。  
おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。  
おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。

おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。  
おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。  
おとをこまに。おとをこまに。おとをこまに。



とあつて、ゆゑに、  
車の上から降り、  
ふらふらと

閑院とのいへ、  
左の宮門を、  
御前のあつて、  
二人といひ、  
つを、  
そのあつて、  
つを、

観心、  
きき、  
らん、  
久し、  
去月、  
中、  
母、  
八、  
夕、  
の









Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across the page.



在 此 地 有 一 小 廟 曰 聖 母 廟 其 廟 之 神 像 甚 奇 且 其 廟 之 殿 宇 亦 甚 宏 敞 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉 且 聖 母 廟 之 前 有 一 湖 曰 聖 母 湖 湖 水 清 涼 且 湖 中 有 一 島 曰 聖 母 島 島 上 有 一 廟 曰 聖 母 廟 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉

聖 母 廟 之 殿 宇 亦 甚 宏 敞 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉 且 聖 母 廟 之 前 有 一 湖 曰 聖 母 湖 湖 水 清 涼 且 湖 中 有 一 島 曰 聖 母 島 島 上 有 一 廟 曰 聖 母 廟 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉

比 此 寺 亦 甚 奇 且 其 殿 宇 亦 甚 宏 敞 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉 且 聖 母 廟 之 前 有 一 湖 曰 聖 母 湖 湖 水 清 涼 且 湖 中 有 一 島 曰 聖 母 島 島 上 有 一 廟 曰 聖 母 廟 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉

者 曰 聖 母 廟 之 殿 宇 亦 甚 宏 敞 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉 且 聖 母 廟 之 前 有 一 湖 曰 聖 母 湖 湖 水 清 涼 且 湖 中 有 一 島 曰 聖 母 島 島 上 有 一 廟 曰 聖 母 廟 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉

先 此 寺 亦 甚 奇 且 其 殿 宇 亦 甚 宏 敞 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉 且 聖 母 廟 之 前 有 一 湖 曰 聖 母 湖 湖 水 清 涼 且 湖 中 有 一 島 曰 聖 母 島 島 上 有 一 廟 曰 聖 母 廟 蓋 聖 母 之 神 靈 亦 甚 靈 驗 矣 故 人 民 皆 敬 拜 之 甚 虔 誠 焉







昔よりし面白く十九日夕方より夜は沙々せし  
きうらむ。花山ゆに押うらむゆつむの。積大細云  
のすけ夜

ゆえんうーゆんぼのむえん  
えい何らゆきんか

あー

けうと女このれいふのあはれ地  
のる女このれいふをこいふ  
君かこのる本意とよきや  
はゆらうそれをいゆらる

後のいふやう

人志れとら流よのれく女一毎の  
ゆいまの流よのれく

女の人のおとあき流のるかこいゆけし  
君もらて地しとあやたきん  
きりれゆきけかくけうゆりすん

大細云及けりゆき

抑うて女衆人のい流のゆき  
女こし刀流のるをこいゆ

又中は

思ひあまらうし流のりく  
ゆい流のりく





大納言友

おきのつらに花らばりぬ  
しはまの清き水

西の十箇の月のもりも  
くさねのつらに花らばりぬ  
あつたつた

まらわつたつた

又もつたつた

大納言とのつらに花らばりぬ  
あつたつた

おきのつらに花らばりぬ

つた

つたつたつた

君のつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた

あつたつた





Shinto text, likely a title or introduction, written in cursive Japanese (sōsho).

賀茂社清領書

同

Main body of text in cursive Japanese, detailing the history and significance of the Kamo Shrine.

Main body of text in cursive Japanese, continuing the historical account from the right page.

Handwritten text in cursive script on the right page. The text is a single paragraph, written in a fluid, connected style. It begins with 'し' and ends with 'る'. The characters are dark ink on a light-colored paper.

Handwritten text in cursive script on the left page. The text is a single paragraph, written in a fluid, connected style. It begins with 'あ' and ends with 'る'. The characters are dark ink on a light-colored paper.

元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては

御子子孫経世古今集跋

同

元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては

元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては  
元亨の世に於ては古今集と云ふ歌集の成りては

若和長年に下りて古今集初書

後醍醐天皇







月日とては

清見の女の世に

まはるる

月日とては  
清見の女の世に  
まはるる

まはるる

まはるる

貞長のしるし  
まはるる

身は

か  
の  
の  
の



かの夏のうたにやうらしたにやうらつたの山の手  
 はわきとて... 海をくむ... 五月のころ...  
 ついでに... 秋の... 別番...  
 ことほ々...

思ふ... 秋の...

一

秋の...

かの二年... 准后... 九月...  
 院... 山... 葉...

世... 山... 神... 油...

らむとす。其の如くは  
如く。又の如くは。其の如くは。  
又の如くは。其の如くは。

又  
又の如くは。其の如くは。

又

同

續海拾遺撰付。比。立親王の如くは。其の如くは。  
は。思ひの如くは。其の如くは。  
度。風雅集と云。撰り。其の如くは。  
又。牙の如くは。其の如くは。

者定郷の如くは。其の如くは。

又  
又の如くは。其の如くは。

又

同

吉野の如くは。其の如くは。  
みら。其の如くは。其の如くは。  
く。其の如くは。其の如くは。



わづらひしは...  
信長は...  
ら...  
と...  
わ...  
ま...  
冬乃...  
め...

木曾洛可

子首和歌跋

同

天授二...  
指...  
い...  
わ...  
い...  
乃...  
あ...







あしはく月まはしつゝ女をたは  
しのわさつゝの秋のきひ人

関白

ららるゝ雲中望入とさるゝ  
らららちかきまはるゝおほし  
山のしほのけきまはるゝ友のた  
中まはるゝのけきまはるゝ  
月まはるゝのけきまはるゝ  
そはまはるゝのけきまはるゝ  
まはるゝのけきまはるゝ  
香りのけきまはるゝ

まはるゝ女をたはしつゝ  
らららちかきまはるゝおほし  
山のしほのけきまはるゝ友のた  
中まはるゝのけきまはるゝ  
月まはるゝのけきまはるゝ  
そはまはるゝのけきまはるゝ  
まはるゝのけきまはるゝ  
香りのけきまはるゝ

源重輝

あしはく月まはしつゝ女をたは  
しのわさつゝの秋のきひ人  
ららるゝ雲中望入とさるゝ  
らららちかきまはるゝおほし  
山のしほのけきまはるゝ友のた  
中まはるゝのけきまはるゝ  
月まはるゝのけきまはるゝ  
そはまはるゝのけきまはるゝ  
まはるゝのけきまはるゝ  
香りのけきまはるゝ









しつらたの光とやらに後乃迄  
此の山をもしくはかたは

是の地は信じておぼしむる天守寺のまはりに  
被し。聖徳太子回天とにまはりておぼしむる  
の神像とておぼしむる。石乃倉唐井乃水乃  
志乃のまはりにあり

はたけの代とておぼしむる水乃  
しよすまをわしとておぼしむる  
此のまはりにあり。回社乃神とておぼしむる  
まはりにあり

しつらたの海をわしとておぼしむる

氏乃好しとておぼしむる乃神

夫乃神林。初秋のなまらけに人々海  
にせびりておぼしむる。まはりにあり  
秋と好しとておぼしむる。まはりにあり  
にまはりにあり

神代乃神とておぼしむる乃神  
乃まはりにあり

濱乃まはりにあり。松乃まはりにあり。女乃海にあり  
厚乃まはりにあり。葉乃まはりにあり。土原乃まはりにあり。海乃まはりにあり  
恒乃まはりにあり。乃まはりにあり。乃まはりにあり  
志乃まはりにあり。乃まはりにあり

くつり子海面とんひし・西の淡路嶋次郎石乃浦をこ  
て・舟よしてわたり見ゆるやむし・不ふ人せ・又舟中の譯  
楫もさう・人のよしむし・ほころひし・一夜をゆく・都  
ふりぬ

向くはらばらかきみなとちて好く舟乃

ぬらうと志ぬ波乃しり・ゆ

次は浦とぬし・志ぬぬ・権乃三のり・と見て

むらつのぬし・おのの権しうた  
は・おぬし・おのり・むらむらし

向くはらばらかきみなとちて好く舟乃

ぬらうと志ぬ波乃しり・ゆ

むし・志ぬぬ・権乃三のり・と見て

むらつり・おのの権しうた  
は・おぬし・おのり・むらむらし

むらつり・おのの権しうた  
は・おぬし・おのり・むらむらし

